

NPO法人 歩かんね太宰府

歩かんね太宰府は、「大宰府の新しいまち歩き」を、テーマに活動している団体です。新しいまち歩きとは、全国的に有名な大宰府跡、観世音寺、太宰府天満宮といった史跡・寺社仏閣だけでなく、各所に残る石仏・四季を彩る草花・伝説や和歌が伝わる場所を参加者とともに歩き、語り楽しむことです。

平成19年(2007)5月に市民中心のボランティアの集まりとして始まり、その年の太宰府の秋の行事「古都の光」に合わせて、太宰府らしさ満載の「朱雀大路を歩くコース」から、まち歩きがスタートしました。春(3~6月)秋(9~12月)の2回、いろいろなコース・メニューを準備し、毎年千名を超える方々が参加されています。平成21年(2009)にはNPO法人となり、活動の場を新たに広げています。

さて、太宰府には昭和の時代、太宰府に根ざして芸術活動を続けた富永朝堂という偉大な彫刻家がありました。彼は戦後の文化復興活動を通し、太宰府と深く関わり、生涯、地元根ざした活動を続けました。

私たちは、富永朝堂という人物と、彼が愛した太宰府をまち歩きを通じて伝えたいと考えています。朝堂の住居兼アトリエである「吐月叢」と市内各所の朝堂作品を紹介するコースも準備しますので、みなさんもぜひご参加ください。

NPO法人歩かんね太宰府
(太宰府市NPO・ボランティア支援センター内)
<http://dwalk.exblog.jp/>
TEL080-6446-3905/FAX092-918-3644



神牛像と子どもたち【太宰府天満宮】

太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・人・出来事。これを将来に伝えていきたいと思う物語と、守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切なだと納得したものです。

太宰府市民遺産(太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝)
=守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから(活動)」
【「ちから(活動)」の源となる物語(思い)】



■例えば

- まちづくりの基礎をつくりあげた人
- 四王寺山の堂々たる姿が見える場所
- いつもお詣りしているお地藏さん
- 道ばたにある、むかしの道標
- おばあちゃんがやってる数珠くり
- 40年つづく団地の夏まつり



稲子地藏尊【国分】

など、将来に伝えたい太宰府の個性がたくさんあります。

芸術家 富永朝堂

太宰府市民遺産：第4号
認定：平成23年1月30日
景観・市民遺産育成団体：NPO法人歩かんね太宰府
発行日：平成26年1月1日



谷風(片山攝三氏撮影、福岡県立美術館提供)

太宰府市景観・市民遺産会議【URL:<http://www.市民遺産.jp>】



太宰府市民遺産

第4号

芸術家 富永朝堂



谷風(こくふう)(昭和13年)
(福岡市美術館所蔵、藤本健八氏撮影)

NPO法人歩かんね太宰府



平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)

芸術家 富永朝堂

富永朝堂は、昭和という激動の時代を太宰府で生き、この地をこよなく愛した芸術家です。

明治30年(1897)博多祇園山笠で有名な櫛田神社近くで生まれ、大正4年(1915)上京し彫刻家山崎朝雲に師事、のちに帝展(後の日展)で特選受賞を重ねて名を馳せました。太平洋戦争の激化とともに福岡へ疎開し、太宰府の地に住居をえて、昭和62年(1987)に亡くなるまで生涯をすごしました。

朝堂は、高村光雲(高村光太郎の父)、山崎朝雲と続く日本木彫界の本道を受けつぐ代表的な作家で、その作風は、初期にみる水の滴のような作風から、木が語りかけてくる言葉に耳を傾け木が欲する姿を追い求める作風へと変わり、次第に抽象的な表現へと変化しました。作風の変化は見る者に楽しみを与え、ここに朝堂が「木の中に棲む作家」と言われる由縁があります。

日展の審査員になったとき、再上京の機会もありましたが、久留米出身で八女在住の洋画家坂本繁二郎(1882-1969)の考えに共鳴して、地方在住の彫刻家としてすごします。木彫の大家ながらも、その気さくな人柄は人望を集め、観世音寺復興奉賛会設立(昭和22年(1947))の発起人や、筑紫美術協会(昭和45年(1970)設立)の初代会長をつとめるなど、太宰府に根ざした芸術家でした。



富永朝堂と神牛像(昭和60年、広中剛氏撮影)

この地図は、太宰府市内の主要な観光地と交通ルートを示しています。赤い枠で囲まれた場所が、富永朝堂の作品が見学できるスポットです。

- 宮村翁勤勞の姿【学業院中学校】
- 御神牛(ブロンズ)【太宰府天満宮延寿王院前】
- 古都大宰府(朝堂監修)【太宰府市役所ロビー】
- 朝堂アトリエ「吐月叢」

太宰府市内の 富永朝堂作品見学スポット

富永朝堂の作品は太宰府市内にいくつもあり、その中には、いつでも見ることができるものがあります。

観世音寺には、聖観世音菩薩を納めた「厨子」が、太宰府天満宮の延寿王院(宮司邸)前には、遺作となった「神牛像」があります。また太宰府市役所のロビーでは、監修した巨大な木彫りのレリーフ「古都大宰府」を見ることができます。

NPO法人歩かね太宰府では、春・秋に行っている市内散策コースで、朝堂のアトリエ「吐月叢」訪問も企画しています。
【詳しくは、歩かね太宰府まで】

